



RI会長
ゴードン R. マッキナリー

世界に希望を生み出そう

ま
る
が
め

週報

会員数 54 名
欠席者

出席者37名・欠席者10名・免除会員10名
麻田・後藤・和泉享・松山・林・松村・谷本・山本由・山本広
横田-会員

前々回出席率

2024.5.9
Vol.61
No.34
(2939)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 福田 洋子
幹 事 尾崎 浩太郎
会報委員長 稲田 達典

お知らせ

・ 5月のプログラム

4 (No.1)-お城まつり参加
9 (No.2)-客話
23 (No.3)-クラブフォーラム

・ ニコニコBOX;なし

祝誕生日
横田君
よいことがありました
眞鍋君

<ニコニコ会計累積/ ¥196,000>

・ がんばるBOX;

香川ファイブアローズ生岡社長を
お迎えして
福田君 大西君
お城まつりにたくさんの参加を
頂きありがとうございました
橘君

<がんばる会計累積/ ¥298,000>

例
会
場
・
事
務
局

丸
亀
市
塩
飽
町
50
ー
3
丸
亀
プ
ラ
ザ
ビ
ル

■会長挨拶

皆さん、NHKの連続テレビ小説(虎に翼)見ていますか。この物語は三淵嘉子さんのお話です。三淵嘉子さんは、1914年(大正3年)シンガポールで生まれる。東京女子高等師範学校附属高等女学校を卒業して、明治大学専門部女子部法科に入学した。そして1940年日本初の女性弁護士の一であり、1952年名古屋地方裁判所で初の女性判事、1963年東京家庭裁判所判事、1972年新潟家庭裁判所長に任命され、女性として初の家庭裁判所長となる。

三淵嘉子さんの父武藤貞雄さんは、丸亀市出身丸亀藩の御側医を務めた宮武家の次男として生まれ、妻ノブの伯父で丸亀の市会議員 武藤直言の養子となる。東京帝国大学法科大学政治科卒業後、台湾銀行シンガポール支店勤務 母ノブは幼い頃に父を亡くし、裕福な伯父武藤直言・駒子夫婦のもとで育つ。丸亀と縁があったのです。夫、和田芳夫は武藤家の元書生 父貞雄の丸亀中学時代の親友甥 丸亀中学校卒業後、勤労学生として、明治大学夜間部で学び東洋モスリンに就職 1941年嘉子と結婚1946年戦病死。その後、1956年三淵乾太郎判事と再婚。1972年に初の家庭裁判所長、1978年横浜家裁所長となり、薄汚れていた調停室の壁を明るい白に塗り替え、壁に絵をかけ、カーテンを新調し、昼休みには廊下に静かな音楽を流した。家庭問題に深刻な悩みを抱えた人々の心を少しでも和ませようとの心遣いからであった。女性ならではの思いつきではないかなと思いました。凄い女性が丸亀出身とわかり、嬉しく思っています。

■幹事報告

・地区大会ご案内(5/17~18)
・丸亀市国際交流協会より「たぶんか共生防災講座」のご案内

■理事会報告

・6月のプログラムについては5月理事会で決定した通り
・台湾東部地震への支援金について
社会奉仕基金より55,000円+募金36,000円の91,000円を支援金としてガバナー事務所へ送金する
・新入会員について
新会員候補の西森浩史様の入会を理事会で承認
(株式会社ヒカリグループホールディングス:山下会員と交代)
5月23日(木)の例会時に新会員候補として発表
異議などなければ入会手続きを開始し、来期より入会
・納会について 6月20(木)18時30分~
シェルエメールにて納会と大沢会員の歓迎会を開催 会費6,000円

■例会事業;客話;香川ファイブアローズ代表取締役 生岡直人様【クラブ理念】

決してあきらめない、全ての可能性を

Never give up, all the possibilities.

バスケの熱狂と感動を香川の日常に満員のアリーナに生まれる、時が止まったような静けさの後、割れんばかりの大歓声。あたたかい雰囲気かつ見るものを引き込む数々のエンターテインメント。その熱狂と感動を忘れられずに、県内はもちろん県外からも多くの方がワクワクしながらアリーナに訪れる。街と人は黄色と黒で彩られ、バスケ論議に花を咲かせる。

E-mail:office@marugamerc.com <http://www.marugamerc.com>



子どもたちは街で楽しそうに、時には真剣に、憧れの選手の真似をしている。選手、スタッフ一人ひとりはそのありがたい光景に感謝しながら、期待を一身に背負い、新たな熱狂と感動を生み出すべく常に挑戦する。香川ファイブアローズは、このビジョンを常に念頭に置きながら行動しバスケが生み出す熱狂感動を必ず香川に根付かせます。

クレド

1 思考と感情を 想像できているか？

五感を活用しながら、お客様、仲間をはじめとする関わる方々の思考と感情を想像することで、自分自身の言葉と行動をより良いものにします。

2 当たり前が できているか？

「当り前の事を実践できているのか？」と常に問いかけることで自分基準を抜け出し、当り前の基準を高めていきます。

3 自ら学び、 進化できているか？

まだまだ未熟。そう肝に銘じながら、常に新たな知識・知恵・情報を積極的に取り入れることで、自分を磨き、進化させていきます。

4 意味・目的を 見出しているか？

答えを求める前に自ら考え、自分なりの答えをつくる。そうすることで行動に意味・目的を見出し、全ての経験を成長につなげます。

5 ポジティブな おせっかいか？

自分の仕事はこれだけ。そう思った時点で個人としてもクラブとしても成長はありません。「さらなる成果を上げるために仲間は何ができるか？」を常に考え、行動します。

6 プロフェッショナルか？

結果にこだわる。言い訳しない。最善を尽くす。支えてくださっていることに感謝する。プロクラブとして一人一人がプロであり続けます。

平安時代末期の武将・那須与一が現在の高松市内屋島で起こった屋島の戦いにおいて、「矢」(＝アロー)で扇の的を射抜いた故事に由来しています。「ファイブアローズ」(5本の矢)という言葉は、プロフェッショナルとしての意識、誇りと使命、信頼と絆、勇気、感謝を表します。

プライマリーロゴ

